

2022年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績

2022年のトピックス

- HIV感染者及びAIDS患者を合わせた届出報告数は288件（HIV感染者は235件、AIDS患者は53件）で、過去10年間で最も少なかった（図-1）。
 - 国籍(日本・外国)、性別に見ると、日本国籍男性の報告数は235件と一番多いが、年々減少しており、過去10年間で最も少なかった（図-2）。
 - 推定感染経路別に見ると、性的接触によるものが250件で全体の86.8%、男性同性間性的接触によるものが216件であった。異性間性的接触は2020年まで減少していたが、直近3年は微増している（図-3）。
 - 年代別の割合は、HIV感染者、AIDS患者共に、4割弱が30歳代が一番多かった（図-4）。
- 電話相談件数は、東京都HIV/エイズ電話相談、都内保健所共に相談件数が前年より増加しているが、2019年以前と比べると少ない状況が続いている（図-5）。
HIV検査件数は17,111件で、前年と比べて1,852件増加した。検査機関別では、都内保健所の件数が前年より増えている（図-6）。陽性率は0.52%と前年より減少したが、都内保健所は0.43%と過去10年の中で2015年に次いで高い陽性率となった（図-7）。
- 梅毒の報告件数は3,677件で、前年より1,226件増加、前年の最多を更新し過去10年間で最も高くなった（図-9）。
 - 感染経路別では、いずれの性的接触も2020年以降増加しているが、特に異性間性的接触が直近3年で3倍となっている（図-10）。
 - 男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代に多い状況は変わっていない（図-11）。
 - 性風俗産業の従事歴有の女性は直近3年間で3倍に増えている。男性は従事歴有が少なく、30%に風俗産業の利用歴があった。

本報告は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、2022年に報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

また、図表中では、東京都新宿東口検査・相談室(旧東京都南新宿検査・相談室)を新宿東口、東京都多摩地域検査・相談室を多摩地域と記載する。

なお、2020年、2021年、2022年については、検査縮小や一時休止等、新型コロナウイルス感染症の影響がある。

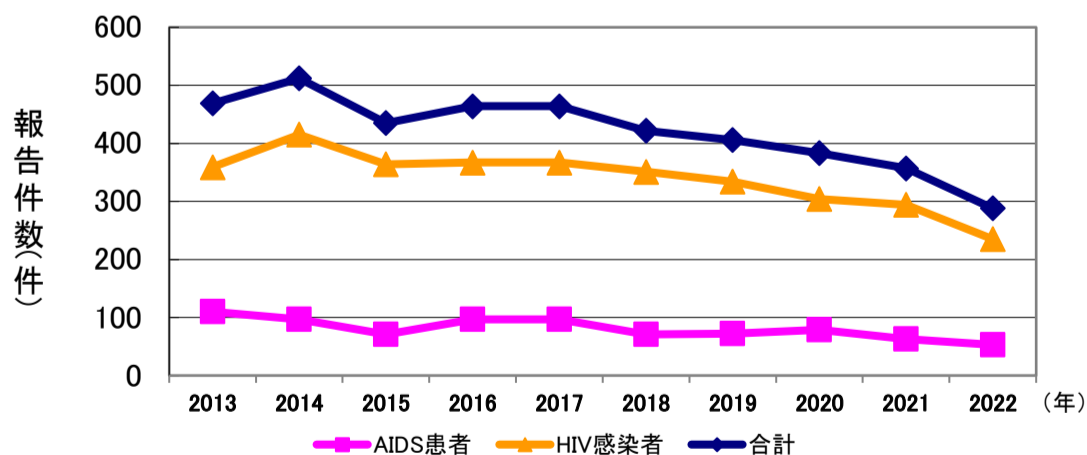
1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

(図-1)

HIV感染者及び
AIDS患者の
報告数の推移

ひとくち
×E

HIV感染者：
HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染しているが、AIDSを発症していない状態。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
HIV感染者	359	415	364	367	367	351	334	304	294	235
AIDS患者	110	97	71	97	97	71	72	79	63	53
合計	469	512	435	464	464	422	406	383	357	288

HIV感染者は、前年と比べて59件減少した。AIDS患者は、前年と比べて10件減少した。
HIV感染者及びAIDS患者を合わせた届出報告数は、過去10年間で最も低く288件だった。

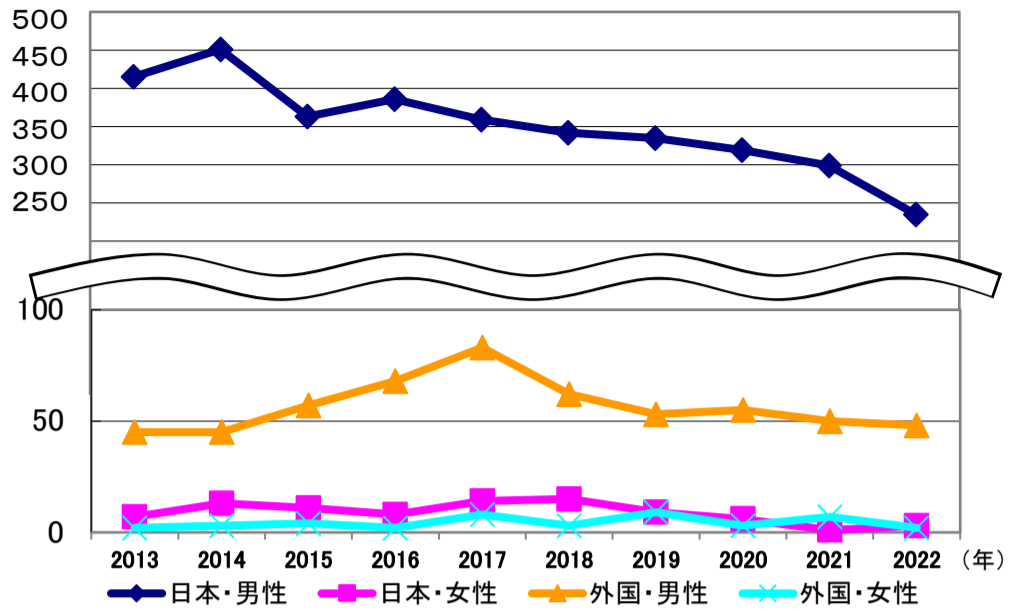
(図-2)

HIV感染者及びAIDS患者合計の国籍・性別報告数の推移(過去10年)

ひとくちメモ

AIDS患者：HIV感染により免疫機能が低下し日和見感染症や悪性腫瘍等(23指標疾患)が認められた状態です。HIV感染後未治療の場合、数年~10数年でAIDSを発症すると言われています。

報告件数(件)



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
日本・男性	415	451	363	386	359	342	335	319	299	235
日本・女性	7	13	11	8	14	15	9	6	1	3
外国・男性	45	45	57	68	83	62	53	55	50	48
外国・女性	2	3	4	2	8	3	9	3	7	2
合計	469	512	435	464	464	422	406	383	357	288

国籍(日本・外国)、性別に見ると、日本国籍男性の報告数は235件と最も多いものの、年々減少しており、過去10年間で最も少なかった。外国籍男性は横ばい、日本国籍・外国籍女性は低い値で推移している。

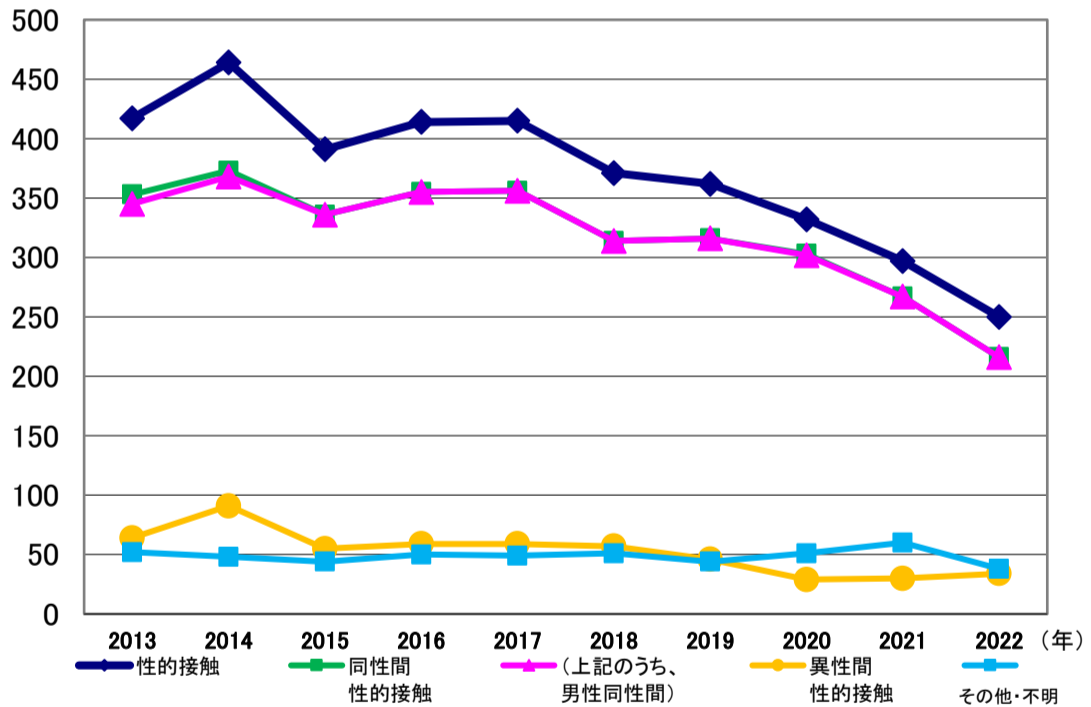
(図-3)

HIV感染者及びAIDS患者合計の推定感染経路別報告数の推移(過去10年)

ひとくちメモ

図-3の「その他、不明」には、感染経路が不明や、母子感染、静注薬物使用の可能性のある場合などが含まれます。

報告件数(件)



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
性的接触	417	464	391	414	415	371	362	332	297	250
	88.9%	90.6%	89.9%	89.2%	89.4%	87.9%	89.2%	86.7%	83.2%	86.8%
同性間性的接触	353	373	336	355	356	314	316	303	267	216
	75.3%	72.9%	77.2%	76.5%	76.7%	74.4%	77.8%	79.1%	74.8%	75.0%
(上記のうち、男性同性間)	345	368	336	355	356	314	316	302	267	216
	73.6%	71.9%	77.2%	76.5%	76.7%	74.4%	77.8%	78.9%	74.8%	75.0%
異性間性的接触	64	91	55	59	59	57	46	29	30	34
	13.6%	17.8%	12.6%	12.7%	12.7%	13.5%	11.3%	7.6%	8.4%	11.8%
その他、不明	52	48	44	50	49	51	44	51	60	38
	11.1%	9.4%	10.1%	10.8%	10.6%	12.1%	10.8%	13.3%	16.8%	13.2%
合計	469	512	435	464	464	422	406	383	357	288

※同性間性的接触に両性間性的接触を含む。

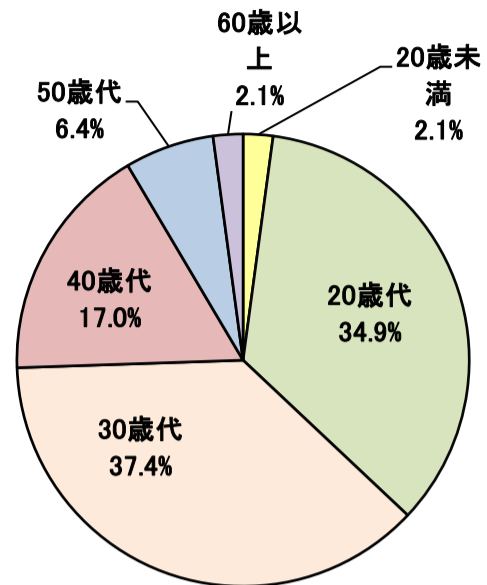
性的接触によるものが250件で全体の86.8%を占めた。男性同性間性的接触による報告数は前年に比べて51件減少し、216件だった。異性間性的接触は2020年まで減少していたが、直近3年は微増している。

(図-4)

HIV感染者及び
AIDS患者の
年齢別割合
(2022年)

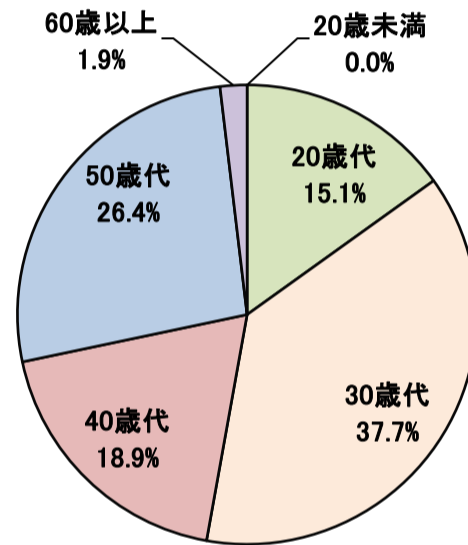
(1) HIV感染者

	HIV(件)
20歳未満	5
20歳代	82
30歳代	88
40歳代	40
50歳代	15
60歳以上	5
合計	235



(2) AIDS患者

	AIDS(件)
20歳未満	0
20歳代	8
30歳代	20
40歳代	10
50歳代	14
60歳以上	1
合計	53



HIV感染者は30歳代が37.4%と一番多かった。
AIDS患者は30歳代が37.7%と一番多かった。

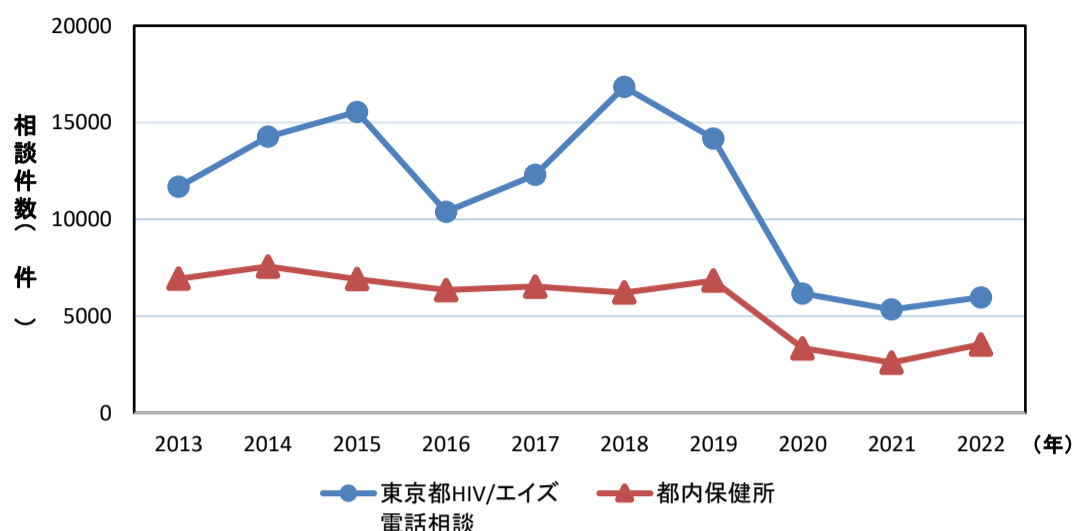
2 保健所等における相談・検査体制

(図-5)

電話相談件数の推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

東京都HIV/エイズ
電話相談：
03-3227-3335
平日：正午～21時
土日祝：14時～
17時 HIV/エイズ
に関する感染不安や
予防などの相談に
応じています。

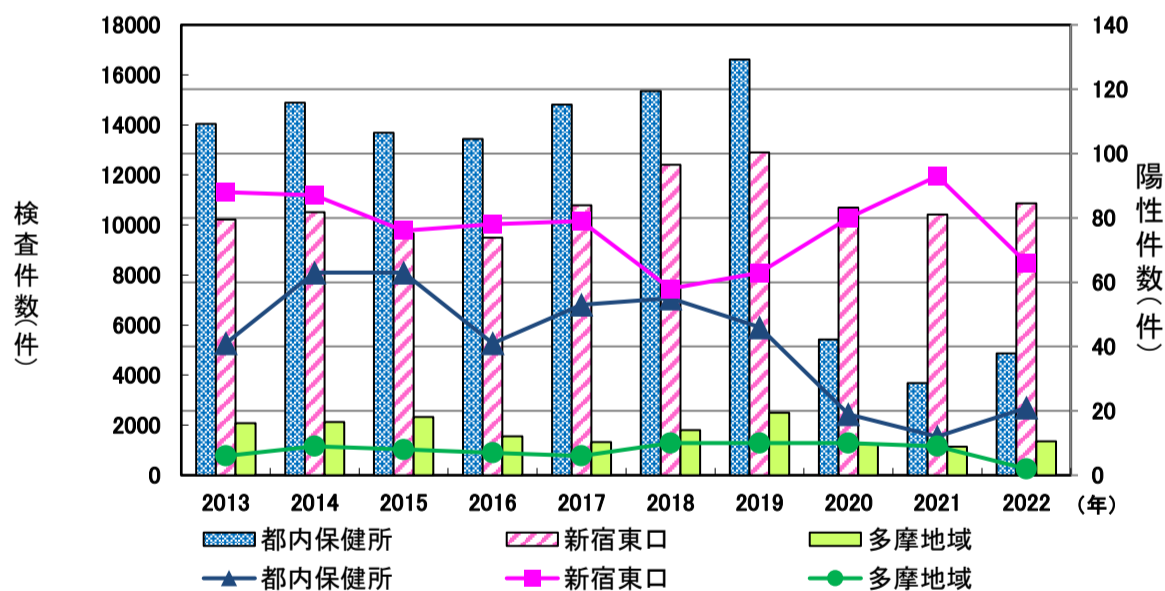


	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京都HIV/エイズ電話相談	11,676	14,263	15,555	10,389	12,293	16,836	14,181	6,167	5,342	5,974
都内保健所	6,938	7,566	6,915	6,352	6,525	6,220	6,836	3,340	2,601	3,539
合計	18,614	21,829	22,470	16,741	18,818	23,056	21,017	9,507	7,943	9,513

電話相談件数は前年より、東京都HIV/エイズ電話相談が632件、都内保健所の相談件数が938件増加しているが、2019年以前と比べると少ない状況が続いている。

(図-6)

HIV検査件数及び陽性件数の推移
(過去10年)

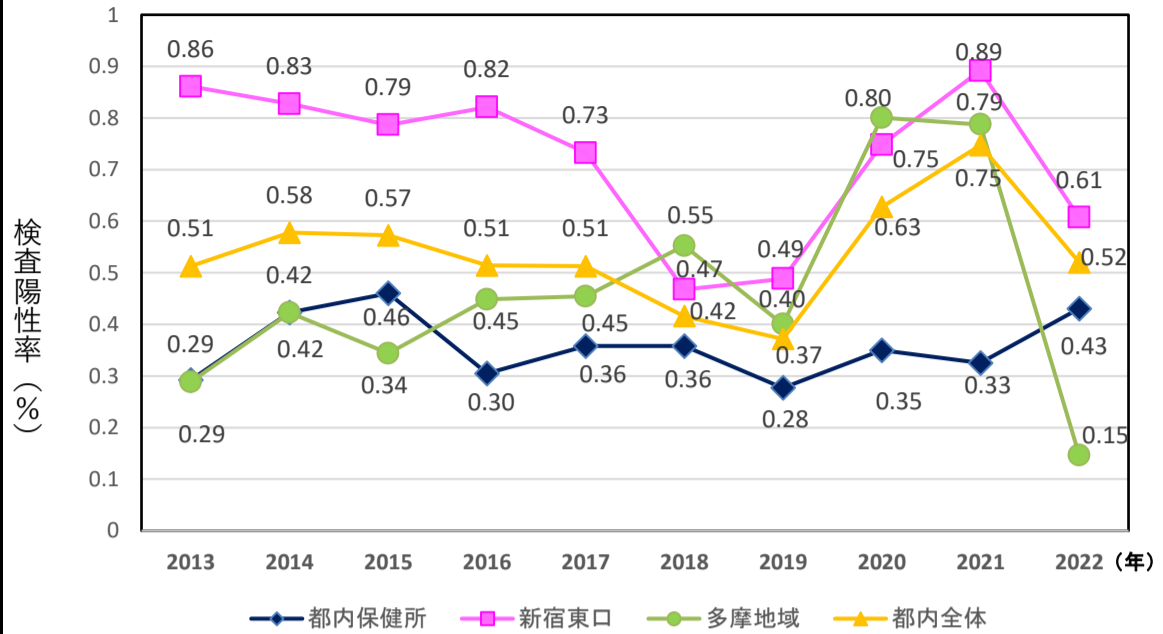


	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
検査件数										
都内保健所	14,036	14,890	13,694	13,446	14,814	15,358	16,621	5,430	3,689	4,877
新宿東口	10,218	10,512	9,662	9,501	10,785	12,408	12,897	10,691	10,427	10,870
多摩地域	2,079	2,129	2,328	1,561	1,321	1,810	2,498	1,249	1,143	1,364
検査件数合計	26,333	27,531	25,684	24,508	26,920	29,576	32,016	17,370	15,259	17,111
陽性件数										
都内保健所	41	63	63	41	53	55	46	19	12	21
新宿東口	88	87	76	78	79	58	63	80	93	66
多摩地域	6	9	8	7	6	10	10	10	9	2
陽性件数合計	135	159	147	126	138	123	119	109	114	89

HIV検査件数の合計は17,111件で、前年と比べて1,852件増加したが、2019年以前の数と比較し少ない状況が続いている。検査機関別にみると、特に都内保健所の件数が前年より1,188件増えている。全体陽性件数は89件と前年と比較し25件減少しており、過去10年間では最も少ない数となっている。

(図-7)

HIV検査陽性率の推移
(過去10年)

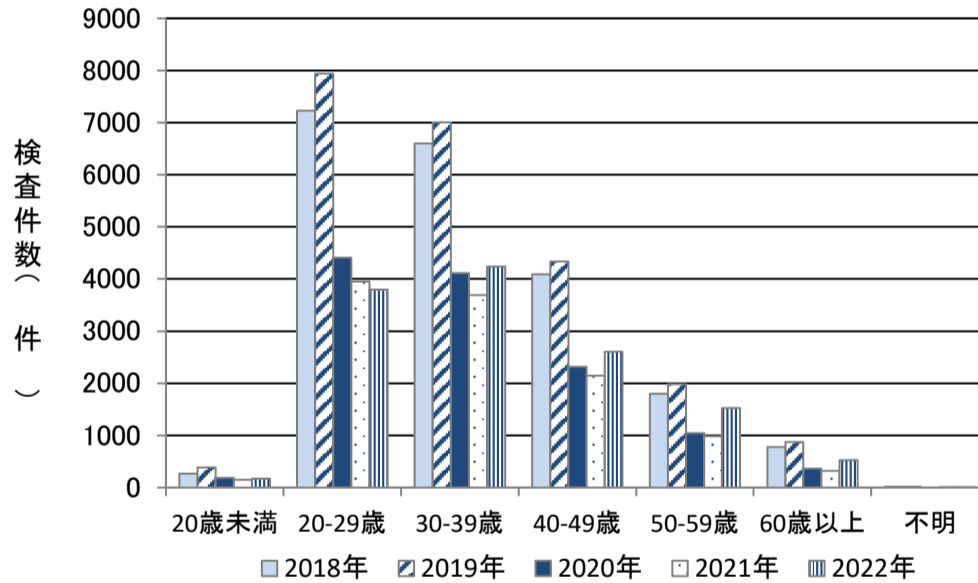


陽性率は都内保健所は0.43と過去10年の中では2015年の次に高い陽性率となっている。新宿東口及び多摩地域は検査数は増えたが、陽性者の数は減ったため、陽性率は2021年より減少している。

(図-8)

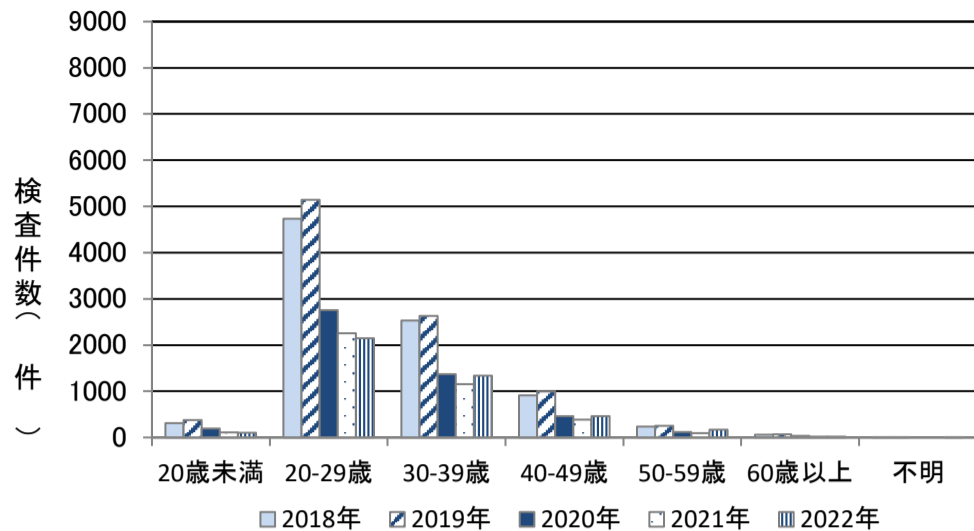
男女別・年齢層別HIV検査件数の推移
(過去5年)

(1)男性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2018年	266	7,229	6,601	4,095	1,801	779	20
2019年	386	7,940	7,005	4,335	1,983	874	15
2020年	190	4,407	4,116	2,320	1,042	367	0
2021年	147	3,955	3,690	2,144	987	322	3
2022年	170	3,796	4,243	2,607	1,525	527	5

(2)女性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
2018年	311	4,731	2,530	911	234	61	7
2019年	381	5,141	2,633	996	254	66	7
2020年	195	2,755	1,371	457	118	32	0
2021年	107	2,252	1,152	382	98	20	0
2022年	104	2,144	1,336	464	166	23	1

年齢層別のHIV検査件数は、男性は20歳代、女性は20歳未満、20歳代は前年より減っているが、その他の年代は前年より増えている。男性は30歳代、女性は20歳代が最も検査件数が多い。

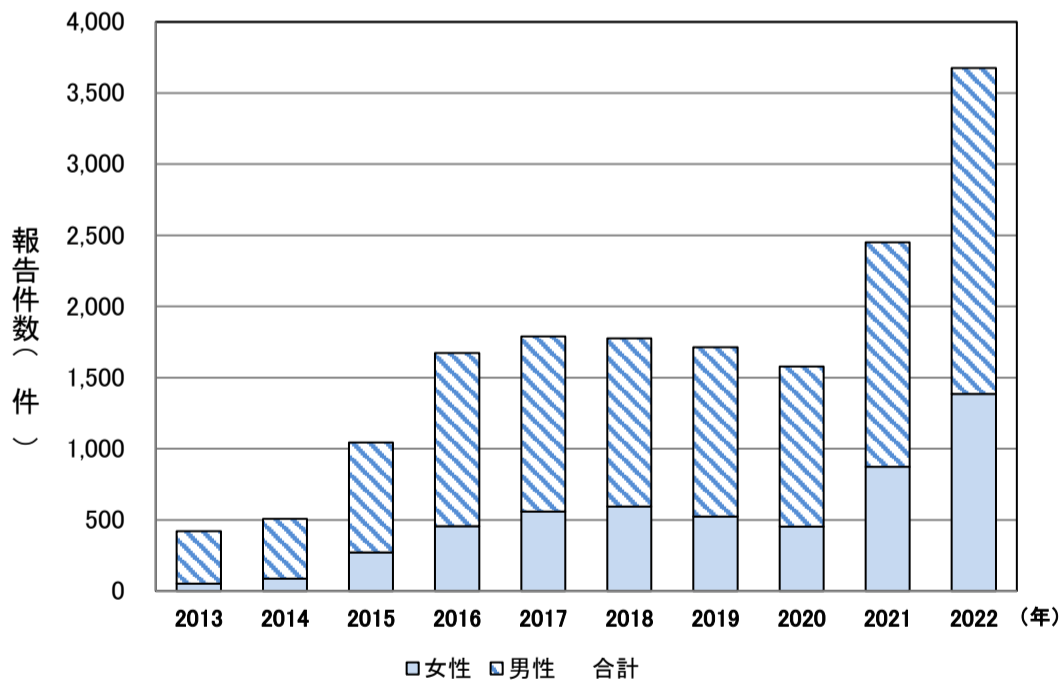
3 他の性感染症情報「東京都の梅毒の動向」

(図-9)

梅毒の患者報告数の推移
(過去10年)

梅毒とは?

梅毒トシポネーマというらせん状の細菌による感染症です。性行為で粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。昔の病気と思われがちですが、近年患者数が増加しています。治療をしなければ、発疹やただれなどができたり消えたりしている間に、病気が進行してしまいます。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
男性	368	420	773	1,218	1,229	1,180	1,189	1,125	1,577	2,291
女性	51	87	271	455	559	595	523	454	874	1,386
合計	419	507	1,044	1,673	1,788	1,775	1,712	1,579	2,451	3,677

—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

報告件数は3,677件で、前年より1,226件増加し、この10年間で最も高い報告数となっている。男女別に見ると男性は714件、女性は512件増加した。

(図-10)

梅毒の推定感染経路別報告数の推移 (過去10年)

梅毒の特徴①

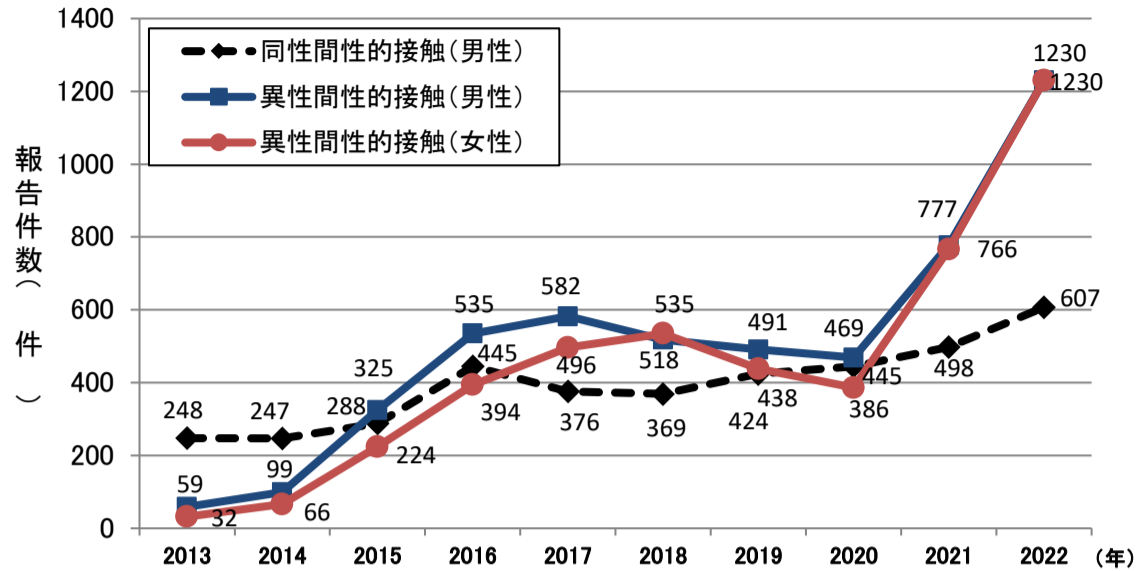
オーラルセックスでも感染します。

症状がなかったり、皮膚に症状がでて痛みやかゆみがないことがあります。

症状が自然と消え、治ったと思いつつも入ることもあります。

免疫ができないので、治療し、完治しても何度も感染します。

症状がなくてもパートナーを感染させることもあります。



※このグラフには、「両性間性的接触」が推定感染経路の場合は含まれていない。

—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

異性間性的接触は男女共に1,230件、同性間性的接触の男性は607件といずれも過去10年間で最も多かった。

(図-11)

梅毒の男女別・年齢別患者報告数の推移 (過去5年)

梅毒の特徴②

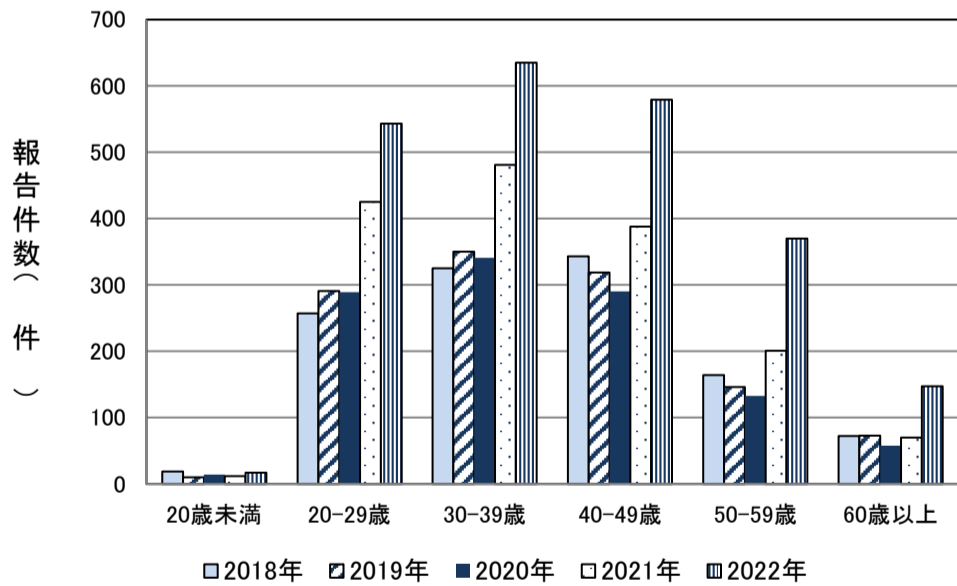
感染しているかどうかは検査でわかります。

パートナーも梅毒検査を受けましょう。

症状があるときはすぐに医療機関を受診しましょう。

予防には、コンドームの適切な使用が有効です。

(1) 男性

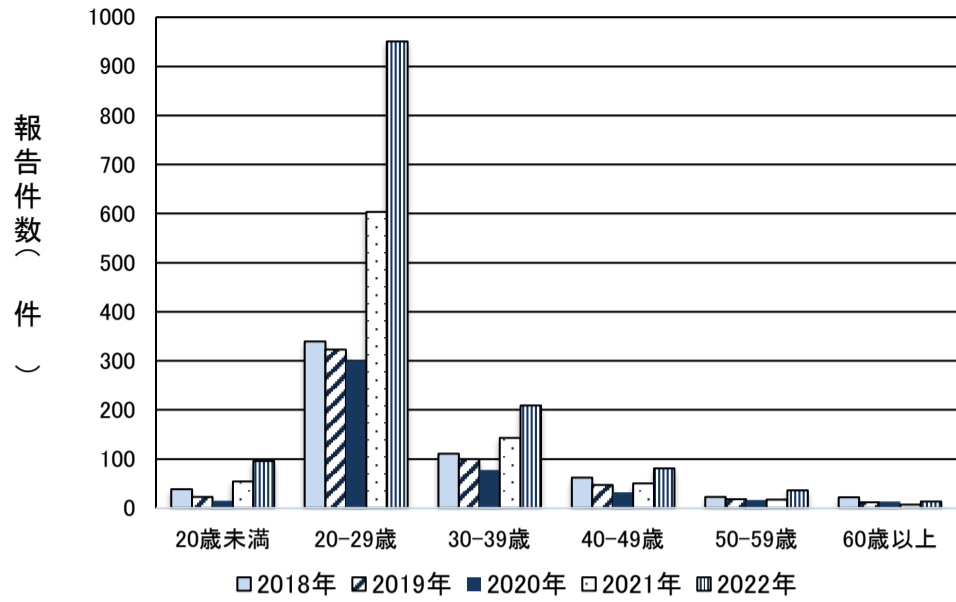


	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
2018年	19	257	325	343	164	72
2019年	10	291	350	319	146	73
2020年	14	289	341	290	133	58
2021年	12	425	481	388	201	70
2022年	17	543	635	579	370	147

梅毒の特徴③

女性が感染し治療しないでいると、妊娠した際にお腹の赤ちゃんにも感染することがあります。

(2) 女性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
2018年	38	339	111	62	23	22
2019年	23	323	100	47	18	12
2020年	15	300	78	32	16	13
2021年	54	603	143	50	17	7
2022年	96	951	209	81	36	13

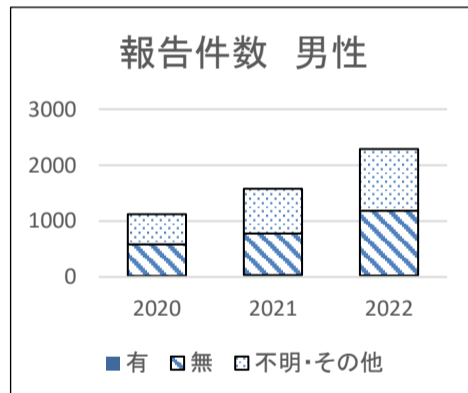
—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

男女別に報告件数を見ると、男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代に多い。年齢別の年次推移では、20歳未満の男性はこの数年低い件数で推移しているが、女性は過去5年間で最も多い件数となっている。2021年と比較し、2022年は20歳代以降の件数は男女共に増加している。

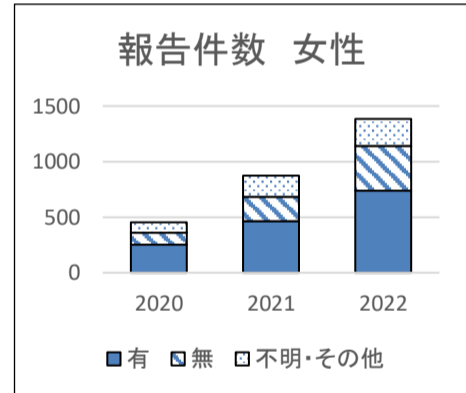
(図-12)

梅毒患者の男女別性風俗産業(直近6か月)従事歴(過去3年)

報告件数(件)

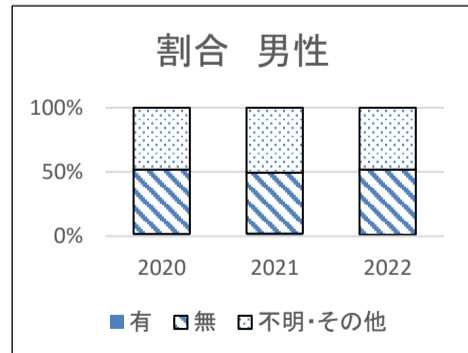


	2020	2021	2022
有	21	31	29
無	563	748	1158
不明・その他	541	798	1104

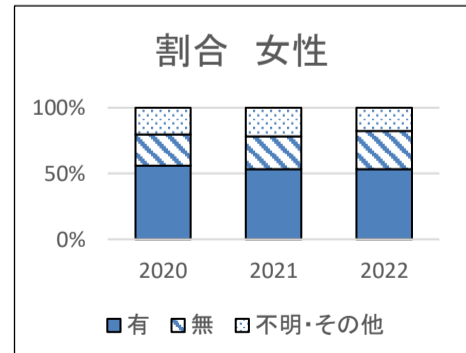


	2020	2021	2022
有	254	466	739
無	108	218	404
不明・その他	92	190	243

割合(%)



	2020	2021	2022
有	1.9%	2.0%	1.3%
無	50.0%	47.4%	50.5%
不明・その他	48.1%	50.6%	48.2%

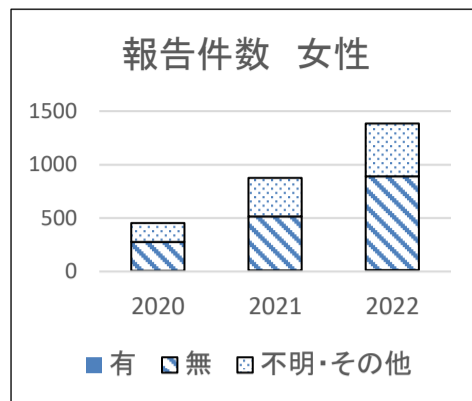
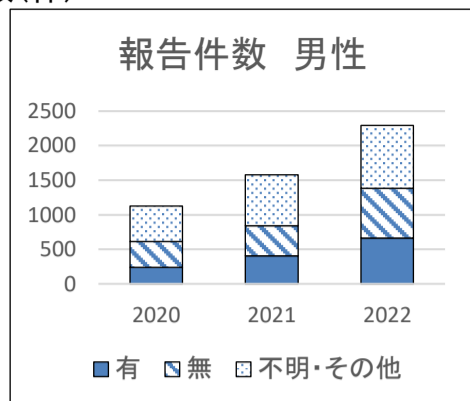


	2020	2021	2022
有	55.9%	53.3%	53.3%
無	23.8%	24.9%	29.1%
不明・その他	20.3%	21.8%	17.6%

(図-13)

梅毒患者の男女別性風俗産業(直近6か月)利用歴(過去3年)

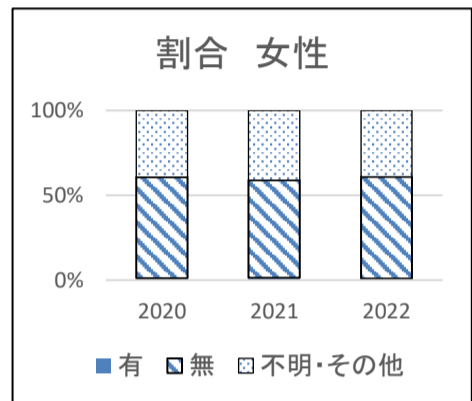
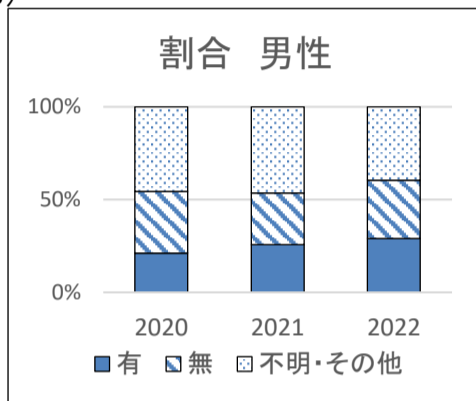
報告件数(件)



	2020	2021	2022
有	239	407	663
無	373	437	721
不明・その他	513	733	907

	2020	2021	2022
有	5	11	14
無	270	503	876
不明・その他	179	360	496

割合(%)



	2020	2021	2022
有	21.2%	25.8%	28.9%
無	33.2%	27.7%	31.5%
不明・その他	45.6%	46.5%	39.6%

	2020	2021	2022
有	1.1%	1.3%	1.0%
無	59.5%	57.6%	63.2%
不明・その他	39.4%	41.2%	35.8%

性風俗産業の従事歴有の女性は過去3年間をみると約3倍に増えている。男性は従事歴有が少ないが、不明その他が全体の半数を占めている。2022年は男性梅毒患者の約30%に風俗産業の利用歴があったが、不明その他は報告件数の約半数を占めている。

(図-14)

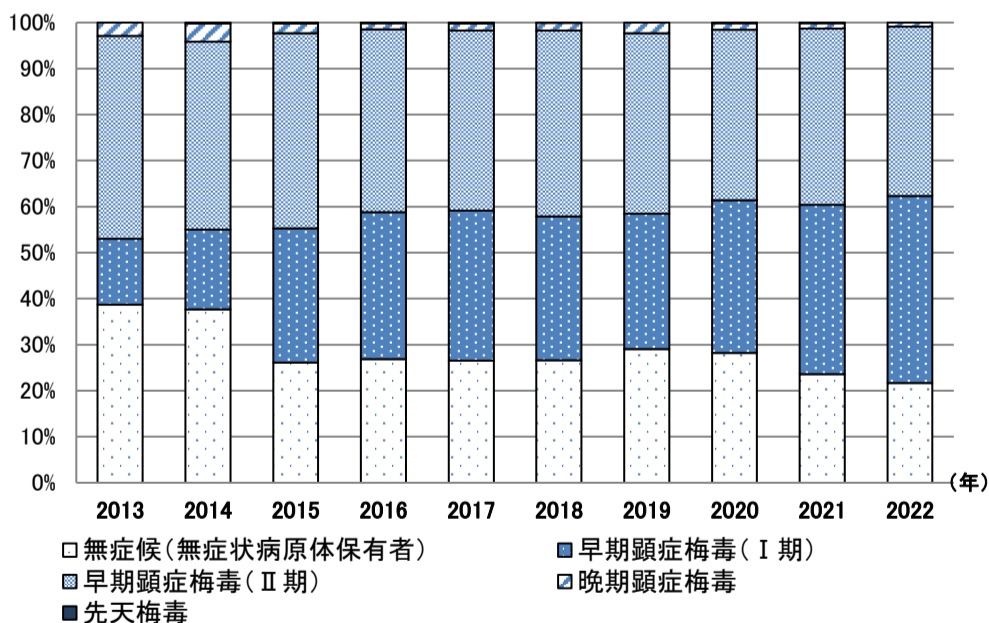
梅毒の病型別患者報告数の推移(過去10年)

梅毒の症状

無症候：症状は現れていないが、梅毒血清反応が陽性。

早期顕症梅毒（I期）：感染した場所に、しこり・ただれ等の症状が現れている状態。

早期顕症梅毒（II期）：I期の症状が消えた後、手足・全身などに発疹の症状が現れている状態。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
無症候(無症状病原体保有者)	162	191	273	449	474	472	497	445	578	797
早期顕症梅毒(I期)	60	88	304	535	584	555	504	525	903	1,496
早期顕症梅毒(II期)	185	207	443	664	700	717	671	585	939	1,351
晚期顕症梅毒	12	20	22	23	26	30	40	22	28	33
先天梅毒	0	1	2	2	4	1	0	2	3	0

—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

2022年は先天梅毒の報告はなかった。無症候、1期、2期、晩期の報告は2021年と比較し、いずれも増加している。

《梅毒情報》

東京都 性感染症 検索

東京都性感染症ナビ

梅毒についてのeラーニングや、国や自治体などの動向、性感染症に関連するイベントや研修などの最新の情報を掲載しています。

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/seikansensho/index.html>



東京都保健医療局「梅毒について」

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/syphilis.html>



東京都保健医療局「性感染症ってどんな病気？」

梅毒やHIV/エイズ、その他性感染症について分かりやすくまとめたパンフレットです。

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/iryo/koho/kansen.files/sti.pdf>



《検査は匿名・無料》

★東京都新宿東口検査・相談室 HIV通常検査(予約制)

HIV検査と同時に梅毒検査も実施しています。

住所: 新宿区歌舞伎町2-46-3 SIL新宿ビル2階

予約電話番号(東京都HIV等検査予約センター): 050-3801-5309

電話予約受付時間: 10:00~20:00(年末年始を除く)

検査受付時間 月~金曜日(祝日を除く) 15:30 ~19:30

土・日曜日(祝日を除く) 13:00 ~16:30

※6/1~6/30及び11/16~12/15は、希望者には性器クラミジア・淋菌同時検査を実施

(尿検査のため、検査日の前日までに尿採取セットの受け取りが必要)

新宿東口検査・相談室
の詳細



※インターネット予約
(24時間)



★東京都多摩地域検査・相談室 HIV即日検査(予約制)

HIV検査と同時に梅毒検査も実施しています。

住所: 立川市柴崎町2-21-19 東京都立川福祉保健庁舎内2階

予約電話番号(東京都HIV等検査予約センター): 050-3801-5309

電話予約受付時間: 10:00~20:00(年末年始を除く)

検査受付時間: 土曜日・日曜日(祝日を除く) 9:50から

問い合わせ先 090-2537-2906 (平日:9:30~17:00、土・日9:30~15:00)

※判定保留の場合は原則1週間後に検査結果を通知します。

多摩地域検査・相談室
の詳細



★東京都HIV/エイズ電話相談

電話 03-3227-3335 (月~金:正午から午後9時まで、土・日・祝日:午後2時から午後5時まで)

★HIV/エイズに関する相談・検査(匿名・無料)は各保健所へ

【発行】東京都保健医療局感染症対策部
防疫課エイズ対策担当
〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487